

特定非営利活動法人(NPO法人) (通称: AAC21)

# 21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203  
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213  
E-mail: info@aac21.net

【カンボジア事務所】 Phom Thmey, Sangkat Rokathom, Krong Chbamon, Komponspeu, Kingdom of Cambodia  
電話 (855) 12-737-559 (855) 12-946-483

【ホームページ】 AAC21

【公式ブログ】

## 会報

### 幸福を、平和を、豊かな心を、 カンボジアの友と分かち合おう

# アンコールワット

発行日 2012年(平成24年) 11月1日

第67号

(年6回発行) (奇数月)

### 事務所の部屋番号が変わりました

このほど、本会事務局を同じマンション内で移転いたしました。  
701号室⇒203号室になりましたので、お知らせいたします。

## 日本の支援でカンボジアに民法が誕生

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

九月十二日、カンボジア滞在中、本会のアドバイザーを務めるリー・ソンカンボジア国会議員に連れられ、小学校の校舎建設を希望する農村を訪ねた。

プノンペンから西へ車で約二時間半、リー・ソン議員の選挙区でもあるこの村で、多くの住民が議員の到着を待ち構えていた。土地問題である。

最近、外国(多分中国)の大企業が農民の土地をただ同然で奪ってしまうケースが多くあるそうで、住民たちはその実態を議員に訴え、解決を依頼していた。

カンボジアでは一九九三年、新

業が弁護士を雇い、善良な農民から土地を奪っているようだ。元々貧しいのに土地を奪われてしまつたら、これから先食べていくことができない。住民たちは、議員に対し何とかしてほしいと真剣に懇願していた。

不法な越境によるものだ。数日後、里子の家庭を訪問したが、その子の両親も不法な出稼ぎ労働者としてタイへ渡っていると聞いた。仕送りは三ヶ月間で二十ドル



9月に高校を卒業した里子の家を訪問 (左から2番目が里子)

タイへの過酷な出稼ぎ労働者が待つている。出稼ぎ労働者といっても、農民の殆んどはパスポートを所持していないので、闇ルートによる

のみ、捕まればお金は没収、身柄は刑務所行きだ。カンボジア人の人権は一体どうなっているのだろうか。



寄贈した井戸の前で子どもたちと

## 國學院大學国際協力サークル「優志」がカンボジア訪問

一行は九月三日に日本を出発し、途中の乗り継ぎ空港で一泊後、四日カンボジアのプノンペンに到着した。五日は六日はバスでシエムリアップへ。トンレサップ湖クルージングやアンコールワット観光などを楽しんだ。

午後からは国立の重度障害児施設を訪問し、カンボジア日本語センターを訪問して、日本語を学ぶカンボジア人学生と交流した。十一日午前中、帰国の途についた。同サークルでは、来年も九月にカンボジア訪問を計画している。



日本から持参した手作りノートを配布

児童施設「夢ホーム」を訪問、子どもたちとアクセサリーを作ったり、プランターに野菜の種を植える作業を行なった。夕食後、日本から持参した花火を楽しんだ。夢ホームへのプレゼントとして、お米四袋を寄贈した。

## 社会福祉・退役軍人・青少年省の大臣を表敬訪問



右から順にシーパン・パイ政府スポークスマン、イツ・サム・ヘン大臣、根岸恒次理事長、リー・ソン国会議員

九月十九日、カンボジア政府の社会福祉・退役軍人・青少年リハビリテーション省、イツ・サム・ヘン大臣を表敬訪問した。本会の現地アドバイザー、リー・ソン国会議員、シーパン・パイ政府スポークスマンが同行した。同省は「夢ホーム」などの児童施設を統括する省であり、以前より挨拶に伺う予定だったが、今回、リーソン国会議員の取り計らいで面会が実現した。

大臣は、現地における本会の活動ぶりを高く評価しており、ふれあいの旅において、参加者の表敬訪問を歓迎しますと応えてくれた。

また、本会が現地で活動している上で、何か問題があれば遠慮なく相談してほしいと、あたたかく迎えてくれた。

## カンボジアの子どもたちをサポートしてください



勉強するカンボジアの子どもたち

## クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、大多数の人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば67年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子ども達を支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

- 【年会費】: 子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入(毎月2500円×12ヵ月)のどちらも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。
- 【会費の用途】: 学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金などに使われます。このほか、現地スタッフの給料、ガソリン代、事務所家賃など現地でかかる経費、通信費、印刷費など東京の本部でかかる経費として使われます。
- 【サポート期間】: 最低1年間単位ですが、少なくとも子どもが学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
- 【里子との交流】: 里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。現地で暮らす里子に会いに行くための旅行も年3回実施しております。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、公的資金(税金)は一切いただいておりません。

### トゥッサナー・カンボジア

カンボジアの果物の「旬」をチェックして出掛けましょう。Let's Go to Market!

**1～2月ごろ**  
クヴェット (ほとんどの旬は冬に食べるとおいしい)  
アウラック (すいか)

**3～4月ごろ**  
ティアップバーイ (ジャカトウ) お祝いの贈り物に最適  
スヴァーイ (スイカ)

**5～6月ごろ**  
トトウム (ざくろ)  
モンコット (マンゴステン)

**7～8月ごろ**  
ロホン (パイナップル) (両方とも、雨季がおいしい)

**9～10月ごろ**  
クローイトロン (イチゴ)

**11～12月ごろ**  
ミエン (バナナ)

このほかに色々な果物があります。どんどんアップグレードしてください。

**カンボジアの果実**

三月、七月、十一月のふれあいの旅では「ダイヤモンドホテル」に宿泊します。朝食のバイキングでスイカ、バナナ、パイナップル、ドラゴンフルーツが定番のようにいつも並んでいます。亜熱帯のカンボジアでも日本と同じように果物の季節があります。

三月、四月ではスイカ、マンゴー、ドラゴンフルーツ、ランブータン。七月、八月ではパイナップル、ザボン。十一月、十二月ではバナナ、サボテンが旬の果物といえます。日本人が食べやすいバナナの旬の季節は十月です。いろいろな種類のバナナが店で見られます。のどが渇いた時に

（兵庫県宝塚市・理事、中野 勝）



立派なたらいが完成しました

九月四日、板金加工技術習得のための職業訓練プロジェクト「もの作り技能講習会」が、児童養護施設「夢ホーム」(コンボンスプー)にある職業訓練棟で開催された。鈴木千雄さん(愛知県あま市・里親会員)がいつもの通り技術指導を行なった。今回は、たらい作りに挑戦、立派な製品ができた。

修了式には根岸理事長も出席し、生徒たちを激励した。次回(十四回)の講習会は、十一月七日、九日を予定している。

### 第十三回「もの作り技能講習会」開催(夢ホーム)

9月7日、國學院大學国際協力サークル～優志～の皆さんが出席し、二つの小学校で贈呈式を行なった。また、武藤和義・康代様(長崎県、里親会員)から、お孫さんのご誕生を記念し、井戸を贈っていただいた。

手押しポンプ式井戸は1基16万円(ネームプレート付き)で小学校に贈呈できる。井戸の設置を要望する小学校の審査から完成に至るまで、本会の現地スタッフが責任を持ち遂行する。



井戸の完成を喜ぶカンボジアの子どもたち

9月に完成した井戸の内訳			
ネームプレートに記されたお名前など	学校名	生徒数	学校の所在地
① 國學院大學国際協力サークル～優志～	オードンゲア小学校	289人	コンボンチャム県プレイチュ郡
② 國學院大學国際協力サークル～優志～	スワイプレイ小学校	227人	コンボンチャム県プレイチュ郡
③ 武藤和義・康代 翁翁誕生記念 12-7-13	タンコック小学校	966人	コンボンチャム県バーティ郡

※通算の井戸設置数(2003年～)＝214基(9月現在)

### 九月はカンボジアの小学校に二基の井戸が完成

### 初めてのカンボジア

村田 環

今回、七月四日から十日の「ふれあいの旅」に参加させて頂きました。いつもより少ない七人という少人数でしたが、アンコールワットの観光も含め、無理のないペースで楽しく旅行を終えることができました。

感動の里子との対面でした。初めての外国人に驚いたのか、お母さんの後ろに隠れるようにしていました。最後には、私のことを「大好き！」と答えてくれ、とても嬉しい気持ちになりました。思っていた以上に体も小さく、持っていたTシャツは大きすぎました。そのTシャツが着れるくらいに、スクスクと成長していきたくらいに、を願っています。

毎回、会報と一緒に送られてくる教育里親の募集の子供達の将来の夢をみていて、先生と医者という子がほとんどで不思議に思っていました。実際に里子の家に訪問してわかったことですが、カンボジアの田舎は、電気も水道もなく、本当に狭い世界で、一日一日を一生懸命生きていくんだと感じました。関わる大人の職業が、先生・医者・農家・工場での仕事しかないのです。

リー・ソン閣下との夕食会でお話を伺った通り、教育を充実させるには、まず国自体の発展と経済の向上が必須であることは否めません。

## 児童養護施設《夢ホーム》日記



9月8日～9日、國學院大學国際協力サークル～優志～の皆さんが夢ホームを訪問、子どもたちと一緒にアクセサリー作りや野菜のプランター作りを行なった。また、プレゼントとしてお米(4袋)を寄贈してくれた。

今回が4回目の訪問、学生さんの数も増えてきたので、宿泊は近くのゲストハウスを利用した。子どもたちは、来年の来園を今から楽しみにしている。

◀國學院大學の皆さんと



**自転車をありがとうございました**

宮川公子さん(宮城県・里親会員)から子どもたちに自転車(5台)が贈呈された。自転車は子どもたちにとって毎日乗る必需品、とても感謝していた。



**高校入学おめでとう**

私たち高校生になりました

6人の子どもたちの高校入学が決まり、10月1日より通学を始めた(カンボジアの新学期は10月)。6人のうち、夢ホームの近い所にある「ソカーポリー高校」に5人、やや遠方にある「コンボンスプー高校」に1人が入学した。3年間、頑張って勉強してほしい。

\*児童養護施設《夢ホーム》は両親や片親を亡くしたり、親がいても家庭的に恵まれない子どもたちの生活の場として、会員の皆様のご厚意により、2009年1月に建物が完成、同年3月に開園しました。現在、5歳から15歳までの17人の子どもたちが入園、近所の小・中・高等学校へ通学しています。



里子の家庭を訪問

国が発展し、現在の生活が変わることが必ずしも幸せとは限りません。しかし、

初めのカンボジア体験でしたが、根岸理事長をはじめ、会のメンバーの方々のおかげで、沢山のことを考え、感じる事ができた旅となりました。今後のカンボジアの発展と、会の益々のご活躍を祈って、微力ながら支援を続けていきたいと思っています。(青森県、里親会員)



**池の水が満水、魚が大きく成長**

満水になった夢ホームの池

カンボジアは雨季の真っ只中、11月の水祭りを抑える頃まで、ほぼ毎日雨が降る。今年は、昨年のような洪水被害は発生していないが、夢ホームの池も満水となり、飼っている魚も大きく成長している。

■かつての避暑地「ポッコ山」が開通

フランスの植民地時代、避暑地として栄えた「ポッコ山」をこのほど、ベトナムの石油会社が再開発した。早速、足を運んでみたが、あいにく霧が出た。標高千メートル、景色が見えなかつた。写真1枚は、植民地時代に建てられた教会。

■牛の世話はずいぶん役割り

カンボジアでは農耕用に牛を使っている。かつては日本もそうだったが、牛の世話はずいぶん役割り。草を食べている。ただ、草むらが少ないので、牛が痩せ細って可哀想になる。

■パン屋さんが急増

カンボジアは以前フランスの植民地だった関係でフランスパンを始め、とても美味しいパンが店頭にも並ぶ。最近郊外にもパン屋さんが増え、商売繁盛だといえる。中でも「パイヨンベーカーリー」が一番美味しい。

■世界各国のお金をショークースで販売

カンボジアは、盗難被害が日本の比ではないにしろ、無防備にも両替所で各国の紙幣をショークースに並べて売っているから不思議だ。店番も女性が一人いるだけで、警備員もいなかった。もともと、営業は昼間だけ。



### ウオッチ！カンボジア



特選「乗合オートバイバス」

### 鈴木千雄さんの写真が特選に輝く

九月十八日～二十日、日本叙勲者協会が主催する「写真展」が東京都港区の「高輪区民センター・展示ギャラリー」で開催された。

同協会の会員でもある鈴木千雄さん（愛知県・里親会員）は毎年、カンボジアで撮った写真を特選しているが、この程その作品が初めて特選に輝いた。

今年の五月、職業訓練指導の合い間をみて、夢ホームの前で撮ったもの。（作品名「乗合オートバイバス」）。モデルは、縫製工場に通うカンボジアの女工さんたちだ。

経済成長著しいカンボジアの一面をうまく撮っている。

名前：ブン・センリ	学校名：ワトクダイ小学校
年齢：8歳	学年：小学校の3年生
性別：男の子	
住んでいる場所：コンボンスプー県、ウドン郡、ウィルボンコミュニティ	
学校までの所要時間：徒歩で15分	
好きな教科：国語（特に、書き取りが好きです。）	
苦手な教科：算数（特に掛け算の計算式を解くのが難しいです。）	
担任から一言：成績：道徳A 学校の活動A 健康A 出席A	
家庭状況：3人の兄弟です。お兄さん2人、センリ君は末っ子です。お父さんは別の女の人と結婚しています。お母さんがいます。現在、お母さんと3人の子供で暮らしています。	
一日の過ごし方：朝5時半頃に起きます。それから、家を掃除したり、洗濯をしたりしています。朝食は6時半頃にします。それから、身支度をし、午前7時から11時まで学校へ行きます。授業が終わってから11時半頃に家に帰り、昼食をします。午後は家事の手伝いをします。毎晩、夕食の後、先生から出された宿題をしたり、授業の教科書を読んだりしています。そして、9時半頃に寝ます。	
好きな遊び：サッカーをするのが好きです。	
好きな食べ物：オレンジ、ロンガン（果物）	
将来の夢：国語の先生です。	



野原に水をやっているブン・センリ君の写真です。

備考：お母さんは工場で縫製業の仕事をしています。工場へ行く前に朝食を子供達の為にご飯を作っておきます。家では家畜を飼っていません。ブン・センリ君は兄達と一緒に他人の田んぼへ貝を拾いに行きます。家に帰る時に、一番目のお兄さんは家族の為に、夕食を作ります。2番目のお兄さんとブン・センリ君は1番目のお兄さんが夕食を作るのを手伝います。夜になると、3人でそれぞれ本を読んだり、自習したりしているそうです。

2012年9月5日  
担当者：メン・ソマリ

## クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病気や事故などで両親や片親を失い、貧しい境遇にあるカンボジアの子どもたちが学校へ行くように二〇〇三年に「クメール教育里親基金」を創設、九月末日現在、三七〇人の子どもたちをサポートしている。

カンボジアの新学期は十月一日、里子たちの大半が進級し通学を始めたが、出席日数が足らなかつたり、成績が良くなかつたため、留年する子どもの中にはいたようだ。

カンボジアの小・中学校は、校舎や教師不足が原因で、ほとんどが午前・午後に分かれての二部授業になっている。午前中



里子にプレゼントを届けた

里親さんになってくれた方からの依頼で、里子さんにお米と自転車を届けた。日本から手紙も預ったので里子に読み聞かせた。

この程、新しく里親さんになってくれた方からの依頼で、里子さんにお米と自転車を届けた。日本から手紙も預ったので里子に読み聞かせた。

が七時～十一時、午後が一時～五時と、全国の学校で取り決めている。合い間をみて、里子の家庭を訪問した。ノロドム高校三年生のプログラム・コムサン君は八月、めでたく高校を卒業した。コムサン君は大学進学を夢を持っていて、近くにあるが、近くには入學するにはペンでアルバイトを借りなければならぬ。当面は働き、学費を貯金するよう促した。

八月三十日～九月一日、本会と「新潟発」カンボジア支援プロジェクト730」が共催し、新潟県の岩室温泉「高島屋」で会員懇親会・新潟集会・夏の陣を開催、会員さんら十人が集った。

宴会に先立ち、向井理主演の映画「僕たちは世界を変えることができない」を上映、大学生が募金活動を行ないカンボジアに学校を建てた実態にあつたお話に感動した。

宴会には「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」（新潟市秋葉区）の石川



楽しかった懇親会



ディナークルーズに参加した皆さん

### 新潟集会・夏の陣（会員懇親会）開催

代表が飛び入り参加、来年、本会を通じてカンボジアに小学校を建てる計画があることを話し、お土産に大量の枝豆をくださった。

翌朝、遠藤実記念館「実唱館」を訪ね、田中屋本店みなと工房」で開催中の写真展を見学、その後解散となった。

来年は十月十二日～十三日、同県、佐渡ヶ島で一泊の懇親会を開催することが決まった。

八月二十八日～九月十六日、「新潟発」カンボジア支援プロジェクト730」が主催し、三林けい子代表・新潟市・里親会員）が主催し、三林さんを始めとするボランティアの皆さんの夢ホームでの活躍ぶりを撮った「二〇一二年七月の活動写真展」が「田中屋本店みなと工房ギャラリー」で開催された。

九月六日～三十日、山形県遊佐町「ギャラリーカフェ 翠」で写真展「カンボジアの子どもたち」が開催された。

遠藤啓さん（静岡県会員）が、カンボジアで撮影した写真を提供した。

遊佐町は、映画「おくりびと」（二〇〇八年）の舞台になった、日本海に面した静かな田舎町。遠藤さんの友人である「カフェ 翠」のオーナーさんが企画、二度目の開催。



興味深く写真を見る来場者

九月一日、「新潟集会・夏の陣」が解散となった後、新潟県小千谷市在住の篠田朝隆さん（理事・会員）を訪ねた。二〇〇四年に起きた「新潟中越地震」で甚大な被害を受けた篠田さんだが、全壊した自宅を新築し、夫婦共々元気で過ごしておられるという。

その後、篠田さんのお隣りの山古志村（現在は長岡市を案内してくれ、地震後、復興再生した村を拝見させていただいた。八十歳を超えたが、益々お元気な篠田さんに会え、皆さん満足していた。

「新潟市」で開かれた。「新潟市役所ボランティア研究会」が協働し、本会が後援した。

写真展の会場が笹団子で有名な「田中屋本店」だけあり、大勢のお客さんが足を止め、カンボジアの写真を興味深く見ている。



篠田さんの自宅前で（左より三人目の杖を持っている方が篠田さん）

部隊はセレス島メナドに近い、小さい飛行場がある所で野営、昼間は野外で体を鍛え、夜は軍歌の演習をしました。連日、時間をおいて米軍の爆撃機が来襲、攻撃を受けましたが、兵舎を草で覆い、椰子の木が密集して隠れやすく、なんとか逃れました。

地元村長が巡査か、時折り馬に乗って見回っていました。治安も良いので、しばらく安心して生活ができました。

（群馬県桐生市・副理事長、里親会員）

やがて部隊に合流、マニラ市内のラスカス国民小学校に寄宿しました。

九月一日、姉妹船でホロ島に上陸目前敵機が発見され、機銃掃射を受けました。初めて銃撃を受け、機銃掃射を受けました。うごめいていました。私も少し腰が抜けましたが、弾丸を避けるため椰子の木陰に身を隠しましたが、多くの兵隊が重傷、又は戦死しましたが、私はひざ下の擦傷ですみませんでした。

船は、陸地に近かったので半分沈んだまま、約半月燃えていて、日本から持ってきた大砲、弾薬、医療品などすべて焼失。これでは戦争はできない、もう負け戦だと、あきらめました。

部隊はセレス島メナドに近い、小さい飛行場がある所で野営、昼間は野外で体を鍛え、夜は軍歌の演習をしました。連日、時間をおいて米軍の爆撃機が来襲、攻撃を受けましたが、兵舎を草で覆い、椰子の木が密集して隠れやすく、なんとか逃れました。

地元村長が巡査か、時折り馬に乗って見回っていました。治安も良いので、しばらく安心して生活ができました。

（群馬県桐生市・副理事長、里親会員）

本会の副理事長、佃井庸八さんは御年九十歳、年に三回実施される「カンボジアふれあいの旅」に参加するなど、今もなお現役で頑張っております。佃井さんから、戦争体験の原稿が届きましたので、しばらく連載いたします。国際協力原稿ではありませんが、読者の皆様のお役に立てれば幸いです。

ふれあいの旅で挨拶する著者（右）

佃井庸八

投稿

カンボジアにおける 日本語指導の経緯について

①私立パンニヤストラ大学 特別開設 日本語コースにて「日本語指導」 ②王立法律経済大学 日本法教育センターにて「書写（習字）」

中野 勝

二〇〇五年十一月の第三回ふれあいの旅で、当時のカンボジア王国上級教育大臣のコレン氏から日本語コースの参観を依頼され、そのことがきっかけでポランティアで指導に行くことになった。

日本語コースには段階的に三つのクラスがある。まず初心者クラス。全く日本語が出来ないクラスだ。二つ目は中級クラス。初心者クラスを修了し、ひらがなが書け、簡単な日本語ができる程度のクラス。三つ目は上級クラス。漢字も少し書け、会話もできるが本来の日本語の意味はまだ分からないクラス。



最後に教えた4年生（2012年5月）

授業は月曜日から金曜日まで毎日行なわれ、全て三ヶ月で修了する。

教授は三ヶ月も入れればいっばいで、日本の中学校の教室を半分にしたくらいである。授業料は十二週間、三ヶ月で二十五ドル。

当初、根岸理事長が初心者クラス、私が中級クラスを担当することになっていったが、初心者クラスは「あいうえお」からの勉強なので日本人の出番がなく、こちらの方から辞退した。私は中級クラスだったが、先生が私の日本語を半分くらいしか分からないため大変困った。しかし、生徒たちは熱心に質問してくれなんと三日間の授業を終えることができた。

カンボジアの二二二ニユース

現地で発行している新聞や情報誌から、カンボジアに関する二二二ニユースを紹介いたします。

カンボジア国民百万人以上が糖尿病に直面

糖尿病医師会は、二〇三〇年までに百万人以上のカンボジア国民が糖尿病にかかる可能性があることを発表した。同協会によると、現在国内には三十五万二千人の糖尿病患者がおり、重症に陥っているという。このままでは二〇三〇年までに百万人を突破し、大きな社会問題になる可能性がある。同協会では予防の促進とともに、的確な対応ができるよう医師の能力向上を促進していくとしている。

「プレアビヒア」から軍が撤退、タイとの関係改善へ

タイ国境近くにある世界遺産「プレアビヒア」遺跡周辺に駐留していたタイとカンボジアの両国軍が撤退を開始した。二〇〇八年からにらみ合いが続いていたプレアビヒアは、ようやく平和を取り戻した。プレアビヒアをめぐる争いは、遺跡周辺

カンボジアの民間調査機関BDR調査・分析した「カンボジアの建設セクターにおける労働者賃金と労務コスト」を発表した。

その結果は、物価上昇分を考慮した実質賃金上昇率では、非熟練労働者が四十二％上昇に比べ、熟練労働者は十一％下落していたことが分かった。この調査によると、二〇一一年の非熟練労働

熟練建設労働者の賃金五年で下落

の国境画定をめぐる争いが論争や対立を繰り返してきた。特に、プレアビヒアがユネスコの世界遺産に指定された二〇〇八年以降は、タイ国内の政情不安ともあいまって対立は武力衝突による犠牲者も出るまでにエスカレートした。このため国際司法裁判所は二〇一一年七月、両国軍の撤退と武力行使の禁止などを命じる判決をくだしていた。

しかし、授業料が高いこと、民間で授業料が安く、熟のような日本語指導の学校と称するところに行く者が増えたこと、また、カンボジアの経済成長率も十％を越え、韓国、中国企業の進出が頻繁で、日本企業の進出が少なく日本語の必要性が少なくなり、かわって韓国語や中国語が隆盛をきわめた。

二〇〇九年十一月にカンボジアから帰国後、先生と学生からメールで日本語コースが閉鎖されたことと連絡が入った。当時、パンニヤストラ大学で「ジェンダー学」を講義されていた中川香須美先生（大阪大学大学院・国際公共政策研究・カンボジア専攻）と知り合った。中川先生は私と同じ兵庫県、しかも神戸市垂水区で三宮や神戸でお会いするのに都合が良い所に住んでおられた。

中川先生の紹介で王立経済大学内に名古屋大学教育センターが設置され、この大学にポランティアで教えるに行くことになった。

二〇〇九年から訪問し、当初は日本文化について教えたが、やはり日本文化の本来の意味が難しく、相談の結果、書写（習字）を教えることになった。最初に教えた学生が二〇一二年七月末に卒業した。私も一年間に三、四回だが四年間習字を教えた。

（兵庫県宝塚市・理事、会員）

者の賃金は中央値で、一日一万四二五〇リエル（約三・六ドル）、熟練労働者は二万リエル（約五ドル）だった。 **プノンペン市、国道二二二線にロータリーを建設** **プ** プノンペン市は七月の月例会議において、国道二二二線と国道二〇〇A号線の交わる地点に、新たにロータリーを設置することを決定した。カエップ・チョテマー市長によると、この計画に基づき、現在プノンペン市公共事業運輸局の職員らが、現地の測量などを含む調査を行なっているという。 またこの会議の中では、ロータリーの中央に設置するモニメントのデザインに関する話し合いも行なわれた。原案では、水がめを頭にのせて立つ女性の像、地球、聖牛があがっている。 **来** リャンシー党（党首ソム・リャンシー氏）人権党（党首クム・ソックカー氏）が合併して新党結成を発表した。両党によると、この新党結成は国家の民主主義と国土の保護を目的としたものであると

活動に参加しませんか

ポランティアについて

学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年三回実施しています。

クメール教育里親基金

農村の貧しい子ども達が学校に行けるようにと教育資金をサポートして下さる里親会員を募集しています。サポート金額は年間三万円（分割も可）です。

会員として

- ・個人会員（年額一〇五〇円）
・法人会員（年額一〇二〇万円）
・里親会員（年額三万円）
・会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込み、現金書留で。
〈郵便振替口座番号〉
21世紀のカンボジアを支援する会
〈口座番号〉
0013000160916
※銀行振込をご希望の方は事務局へご一報ください。
※郵貯銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご一報ください。

記者会見の中でリャンシー氏は、国家の救済と民主主義のために、愛国心と民主主義の心を持つ者はみなこの働きに参加してほしいと呼び掛けた。一方、人民党のスポークスマンは、両党の新党結成は各政党の権利であるが、これを機に非合法的な政治活動を行うことはあってはならないとした。

シアヌークビル空港、収入増

シアヌークビル港公社の二〇一二年上半期（一月から六月）の収入が、前年同期比で十三・六％増となった。縫製品やコメの輸出および、石油や建設資材の輸入が好調であったことが要因とみられる。

また、シアヌークビルでは、中国系のシアヌークビル経済特区（SEZ）が稼動しているほか、同港に隣接するシアヌークビル港SEZも日本の支援で今年完成しており、こうしたSEZでの経済活動が、今後一層の港の利用増に貢献するものとみられている。

事務局便り

クメール教育里親基金では里親の皆様、カンボジアにいる里子の家庭訪問記録と里子のプロフィールを毎年一回、現地スタッフからお送りしておりますが、一年では大きな変化がないため、経費の節約を計ることもあり、次年度より隔年に一度お送りすることに致しました。実情をご理解くださり、今後とも引き続きのご支援をお願い申し上げます。 本会の公式ブログ「メコンの風に吹かれて」も現代のカンボジア事情あれこれですが、アクセス数が九千を超えました。これに奮起して毎月二回（一日と十五日）更新しておりますので、是非ご覧ください。また、ご意見、ご感想などお書きください。ホームページも順次更新しておりますので、こちらもよろしくお願いたします。

- 十一月～十二月の予定
●会報「アンコールワット」十一月一日付第六十七号発行
●第二十二回カンボジアふれあいの旅（十一月七日～十三日）
●第五回小学校対抗サッカー大会（十一月十日～十一日、現地に於て）
●第三十九回理事会（十二月八日、横浜サンアロハにて）
●会員懇親会（忘年会）（十二月八日、横浜サンアロハにて）

真珠のように輝く子供たちの瞳に出会ってみませんか？

「夢ホーム」で子ども達と楽しい交流・里子の家庭訪問・感動的な井戸の贈呈式・学用品配布・アンコールワット観光など 第23回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子ども達との交流をはかることができます。特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子ども達が皆様をお待ちしております。併せて学用品配布などのボランティア活動にも参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。旅行代金も格安に設定しましたので、お気軽にご参加ください。 もちろんカンボジアといえば世界遺産の宝庫、アンコールワット観光（オプションツアー）も予定に入れました。 なお、募集は原則として本会会員を対象にしておりますので、参加される方は、事前に会員登録（一口5,000円）が必要になります。



「夢ホーム」の子ども達が皆さんをお待ちしています



学校訪問では井戸贈呈式に出席します

- 【旅行期間】平成25年3月6日（水）～12日（火）（5泊7日）
【募集定員】最少催行人員10名様（定員＝30名）
先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。
【滞在ホテル】ダイヤモンドホテル（プノンペン）5泊
【利用空港】成田空港および関西空港など
【旅行日程】6日＝成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてカンボジアのプノンペン国際空港へ。
7日＝小学校を訪問、井戸贈呈式と学用品配布など
8日＝夢ホーム訪問、セントラルマーケットで買い物
9日＝教育支援する里子の家を訪ね
10日＝自由行動（オプションでアンコールワット観光あり）
11日＝プノンペン市内観光後、夕方チェックアウト⇒プノンペン国際空港から帰国の途へ
12日＝早朝、成田・関西空港などに到着
【旅行代金】14万円～15万円を予定。＊現地までの航空券代、空港税、ビザ申請代、現地での宿泊代、食費代、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。＊1人部屋希望者追加料金5泊で12,000円。＊日帰りアンコールワット観光26,000円（希望者のみ）＊傷害保険は各自でおかけください。
【締切日】平成25年1月20日（日）

お問い合わせ・申し込み

旅行企画☆特定非営利活動法人 21世紀のカンボジアを支援する会
〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203 TEL: 03-3991-2854
E-mail: info@aac21.net http://www.aac21.net FAX: 03-3557-1213